

新しい時代に向けて

近畿・中国ブロック 青木 ひろみ

平成もあと残りわずか、そしてまもなく次の時代が幕を開けようとしている今年、全国女性造園技術者の会は設立から29年を数えます。会長職をいただいて2年になりますが、会の運営に携わるほどに、この会は、会員一人一人の力によって支えられているからこそ、長きにわたり継続しているのだなと感じます。

私自身、会との関わりを振り返ると、造園の世界に足を踏み入れたばかりで、何でも見て聞いて勉強しなくちゃという勢いで参加しはじめた20代、仕事とプライベートの充実に夢中で、会からは足が遠のいていた30代、仕事で求められる役割が変わってきたものの、なかなか思うようにいかず、打開するヒントを得たくて運営のお手伝いがてら、再び会に参加しだした40代、と空白の期間を挟みつつ、その時々で刺激を頂いてきました。その間、変わらずに会を牽引して下さった先輩方に感謝するとともに、今度は自分が会を支える力の一つになれたらという思いで現在に至ります。

平成2年の設立当初、全国の造園技術者のうち女性の占める割合はわずか2%だったところから、今や職場に複数の女性技術者がいることが当たり前になり、管理職となる女性の数も増え、女性技術者の働き方も多様化してきました。

また「造園」に求められる役割も、環境・生態・景観・防災・まちづくり等様々な分野に広がる中、携わる仕事の内容や考え方もずいぶん幅が広がってきたように思います。

社会においては、インターネットの普及をはじめとする情報技術の劇的な進歩によって、地方にいても、瞬時に様々な情報を入手、発信、交換することが可能になりました。

会をとりまく状況が変化して行く中、現状

を見ると、残念ながら会員数は減少傾向、会員の平均年齢は上昇傾向にあり、今後の会のあり方を考える上で大きな課題となっています。様々な形で「造園」に携わる全国の女性が各々の所属を越えて、学び合い、語り合い、ゆるやかなネットワークで連携できるこの会の良さを、外に向けてどんどん発信するとともに、若手の女性技術者がより参加しやすく、世代を越えて交流できる場となるよう、知恵を出し合って考えていければと思います。意義あるだけでなく、楽しいことも継続の大切な要素だと思います。新しい時代のスタートに向けて、運営に携わる役員のみならず、参加する会員のみならず、そんな会を一緒に作っていきませんか。



近畿・中国ブロック活 お茶事体験での一コマ

(2018.10 京都大原・法泉寺)

台風と地震に思う

北海道・東北ブロック 土谷美紀

2018年9月6日午前3時7分。長く大きな揺れは今まで経験したことが無いほどだった。すぐにテレビを付けると、余震を警戒するよう呼びかけが続いていた。恵庭は震度5強。震源地が近いと思い、テレビ画面に見入った。北海道胆振東部地震の朝のことです。揺れの大きさに反して、食器も割れず、本棚の本も落ち無かったので、家の中は静かでした。家族全員で釘付けになっていた時、突然真っ暗闇になり、外を見ると暗がりの中、たまに通る車のヘッドライトが光って見えました。お風呂の湯は残っている。水道は出た。冷蔵庫には食べ物がある。幸いにも9月はハウスのボイラーが動いていない。花苗は助かる！厚真町の被害を知らぬとは言え、まずは我が身とハウスの心配が頭をよぎったのでした。家の近くに自衛隊の駐屯地があり、3時半には基地へ出勤する車が車列をなしていた。なんだか守られているような気がして心強く感じました。本州の親戚や友人から、メールやSNSで安否確認等があり、ずいぶん心配しているな。と呑気でした。なにせラジオ情報しか無く、バッテリーがもったいないので携帯・タブレットも最小範囲で使うため、報道情報を知らなかったのです。夜が明け車でテレビを見て驚いたのは、厚真町や札幌の凄まじい光景を目にしたときでした。あまりに身の回りと違いすぎ、30分ほど離れた地域の変わりように言葉を失いました。

9月5日は台風21号の影響でハウスのビニールがほとんど破れており、吹き飛ばされたハウスもありました。立て続けの自然の猛威になす術も無く、農産物の出荷時期を迎えていた農家。牛の搾乳を手で行ったと言う酪農家。後に話を聞くと、日頃の電気頼みの経営に警笛を鳴らされた気がしてなりません。

9月6日は快晴でした。出勤してくれたスタッフと一緒に、30棟以上あるハウスの中の植物に水やりをしました。地下水をくみ上げているポンプが動かないので、水道水をバケツやタンクに貯めて運び、1ポットずつ手で水やりしました。6日の夜に通電し、手灌水は1日だけでした。気の遠くなる作業でしたが、誰かと支え合って作業したことが心の支えになりました。この台風と続く地震、ブラックアウトを体験し、テレビの画面から想像するだけだった被災地の今も続く現実を、少しだけわかったような気がしています。

北海道に住む会員のみなさん、お元気ですか？活動も休止状態ですが近況報告会などやりたいですね。

災害の無い穏やかな一年でありますようにと願っています。



全国女性造園技術者の会 平成 30 年度総会 in 京都 報告

近畿・中国ブロック 堀江 典子

平成 30 年度の総会・花と緑を語る会を平成 30 年 6 月 2 日(土)京都市梅小路公園にて開催しました。また自主企画として、総会当日には旧三井家下鴨別邸の見学会、翌 3 日(日)には滋賀県大津市の坂本・堅田の庭園見学会を実施しました。全国各地から多くの会員の方々をご参集くださり、お天気にも恵まれて楽しく充実した二日間となりました。ご参加の皆さま、ご協力いただいた方々、誠にありがとうございました。



自主企画で見学した旧三井家下賀茂別邸

◆総会

平成 30 年度総会は 6 月 2 日 13:30 より梅小路公園緑の館イベント室にて開催されました(出席者 41 名、委任状 64 名で成立)。青木ひろみ会長の挨拶の後、第 1 号議案(平成 29 年度活動報告及び収支決算報告)、第 2 号議案(平成 30 年度活動予定(案)及び収支

予算(案)が承認されました。また、内田由紀子さん(近畿・中国ブロック)より山口での交流会についての案内、原千砂子さん(四国・九州ブロック)より熊本地震被災地支援事業と協力金募集の説明がなされ、早速その場で募金活動がスタートしました。



総会で募金を呼びかける原さん

◆花と緑を語る会

総会に引き続き 14:00 からの「花と緑を語る会」では、講演の部として、最初に曾根文子さん(近畿・中国ブロック)より、先代で(株)曾根造園の創業者であるお父様が京都の名だたる庭園を任せられるに至った経緯と、今の若い職人さん達をどのように育てているのかなどをお聞きしました。次いで、(公財)京都市都市緑化協会専務理事の藤井俊志さんに、「わが子のように」30 年近くかかわって

こられたという梅小路公園の計画段階から現在の管理運営の取り組みまでの諸々はもちろん、作庭家七代目小川治兵衛と妻ミツを中心とした京都庭園文化の関係者のこぼれ話をなどを語っていただきました。さらに見学の部として藤井さんの案内で「朱雀の庭」、「いのちの森」を見学しました。



藤井さんを囲んで参加者全員と記念撮影

◆懇親会

18:00 より東本願寺南の人気店「漬け野菜 isoism」にて懇親会を開催しました。講師の藤井さんを含め 40 名以上の参加者で大いに食べて飲んで盛り上がりました。



Isoism でしゃべる・食べる！

◆自主企画

総会に先立ち 2 日 10:30 より自主企画 1：旧三井家下鴨別邸見学会（38 名参加）、翌 3 日 9:00 より自主企画 2：坂本・堅田の庭園見学会（34 名参加）を実施しました。穴太衆積みで知られる坂本・堅田では石積みの第一人者、近江庭園会長の寺下弘さんのご案内で居初氏庭園（国指定名勝庭園）、堅田の浮御堂、近江庭園（庭園とご自宅も！）、旧竹林院庭園、坂本の石積みなどを昼過ぎまで見学しました。解散後は、皆さんそれぞれに比叡山方面や近江八幡方面などへ移動し、初夏の近江路を満喫されたことと思います。



居初氏庭園の説明の様子



寺下さんと近江庭園の前で記念撮影

2018 熊本地震被災地支援活動報告

四国・九州ブロック 堤八恵子 丸山幸 原千砂子

2016年4月の地震発生以来、学際や業界、地元関係者等からの情報収集及び事業内容の検討を続け、2018年度は総会の決定を経て以下の3件の事業を実施しました。事業実施にあたり皆様から多額の協力金をご提供いただきました。心よりお礼申し上げます。

1. 宇土市新松原「みんなの家」植栽支援

「みんなの家」は、九州大学の先生や学生たち、関連団体等が活動するKASEI（九州建築学生仮設住宅環境改善）プロジェクトが建設を進める被災者対応仮設団地の集会施設です。2018年4月22日にKASEIメンバーや行政職員、仮設住宅や地域にお住いの方々が集まり一緒に外構の植栽をして竣工をお祝いしました。GWは植栽材料の提供とともに会員4名を含む8名が参加。このようなコミュニティ施設はなかったそうで、とても喜ばれていました。

2. シアスカフェ薪ストーブ購入支援

シアスカフェは再生可能エネルギー使用シェルター兼コミュニティカフェです。GWから竹林整備活用のための薪ストーブ購入支援を決定し、2018年12月23日に現地を訪問し寄付金目録をお渡ししました。現在は竹炭を大量に作れる無煙炭化器を検討中とのこと。竹林の整備と竹炭による土壌改良や製品化など広がりが期待できそうです。今後は、寄付金の活用を確認し、竹炭作りやグランピングなどを体験するミニ交流会の実施を検討します。

3.

4. 西原村復興緑化支援

シアスカフェ訪問と同じ日に、Noroshi西原（西原村の復興、緑化などを進める団体）代表の中村圭さんの案内で候補地2箇所を訪問しました。

候補地1

角地にある台形状の空き地で、大学等のボランティア活動



の対象地等にされてきたが、現在は雑草の地面にいくらかの樹木と芝桜やマリ



ーゴールド等の花が見られる程度。管理を担う地域グループがあり、花を眺められる休憩スポットとして、土地の使い方や手軽な植物の提案等の支援をしたいと思います。



候補地2

全壊の古民家を地域コミュニティやボランティア活動の拠点施設として修復中で、庭や庭木が荒れた状況で残っています。再建完成は



2019年夏以降の予定。敷地奥にも宿泊施設やショップなどの利用を考えている納屋やまとまった植栽地があり、古民家再建完成時から段階的に庭全体を整備できるよう企画提案しておきたいと考えます。

候補地1も2もまずは現地調査を実施する予定。GWのイベントに合わせて、企画案の検討や植栽活動のスケジュールを作成し、進めたいと思います。

山口ゆめ花博と山口を満喫 交流会 IN 山口

(一社)日本造園組合連合会 井上花子

30年度の交流会は全国都市緑化フェアが山口県で開催されるに伴い、山口で開催されました。10月13日日本列島の西の端、新山口駅に北海道から熊本大分までの会員とゲストあわせて28名が集合し、新山口駅連絡通路の壁面緑化を岡部園芸の岡部達矢さんに案内をしてもらう。この壁面緑化は30年度屋上壁面緑化技術コンクールで、国土交通大臣賞に輝いたパトリックプラン設計監修の壁面緑化。植物の状態もよく、さまざまな質問が飛んだ、続いて、バスに乗車して、防府市の森に包まれた原工務店の社屋を設計施工された(有)坂本造園の坂本利男さんに案内してもらった。滝流れの偽石はどれか、判別不可能。

続いて、防府天満宮梅テラスでランチタイム。急遽ゆめ花博に関係されたお二人のお話を伺うことになった。実はゆめ花博は大好評で、週末には周辺が大渋滞、飛行機に乗り遅れた人も出たという、山口県の皆さんから当初予定の交流センターには大渋滞にはまるから無理というアドバイスがあり、ランチ場所をお願いして花と緑を語る会を行った。ゆめ花博の陰のプロデューサーの多々良健司さん、花の谷大花壇を設計施工監修された会員の榎島みどりさんにそれぞれ話題提供していただいた。急ごしらえの会場で聞き取りにくい点があったことは幹事一同お詫びします。

ゆめ花博の予備知識が増えたところで、一路、会場を目指す。参加者の行いが良かったのか、幹事の苦勞が報われたのか、晴天の土

曜日にも係わらず渋滞なし。スムーズに会場に入ることが出来た。(山口ゆめ博は最終的に130万人の有料入場者があった)

参加者の皆さんにはコンテスト庭園・花の谷・竹コースターなど十分に会場を視察でき、山口県の女性たち、{姐組}の皆さんにも会い、榎島さんが手がけられた花の谷の夕暮れライトアップも見ることが出来た。

花博会場を後にして、山口市の湯田温泉セントコアに移動、懇親会で盛大に盛り上がり、湯田温泉に漬かって日ごろの疲れを取り、部屋での二次会とおしゃべりの花が咲きました。

翌朝秋吉台展望台をワンストップして萩へ。菊屋家住宅庭園や武家屋敷の町並みを散策、ランチも庭園の美しい武家屋敷の中でいただく、萩指月城の石垣もちょっと視察して、萩のハイライト、萩焼人間国宝の三輪休雪さんの窯元不忘窯へ、当主の三輪和彦さんに三輪の白の茶器でお茶をいただくという幸運に一部のも恵まれた。

少し時間があるということで、笠山のヤブツバキの群生林を視察。その後山口空港と新山口駅で解散した。

今回初めて山口にこられた方も多かったようで、山口交流会満喫できたと大好評でした。山口には、おいしいお酒とふく、さらに今回ご案内できなかった錦帯橋や下関の長府や角島など見どころもたくさんあります。山口への再訪を山口県会員一同お待ちしております。



京都大原・宝泉院「日新庵での茶事体験」

近畿・中国ブロック 高石 ちづる

比叡山からの僧侶が移り住み、声明が響きわたっていた里・大原に5年ほど前に、裏千家 圓能斎監修の茶室が移築されました。公園の施設と同様、立派な茶室があるにもかかわらず、地元住民に活用の機会があまりないのが現状です。そのため有志で二年程前より、「大原御香水茶会」などいろんな企画でお茶室を活用しております。

今回、美しい紅葉には少し早い平成30年10月21日に近畿・中国ブロックの皆様と呼びかけ、茶事体験のお茶会を開催しました。

午前中に露地の掃除をして、空間を清めることから始め、仲さんに着付けをしていただき、大原では有名な「わっぱ堂のお弁当」を頂きました。

「飯後の茶事」として簡単な吸物・小向・八寸の料理は私が担当し、亭主・外園さん、

正客・仲さん、次客・山井さん、お詰め・青木さんと各自、役割分担をしていただき、とても静かなお茶室でゆっくりとお抹茶を楽しみました。ほとんどの茶道具をお借りしている中、山口の緑化フェアでのことが思い出されるようにと萩焼のお茶碗などを亭主自ら、客の一人一人にお茶碗を合わせて持参していただけたことに感激しました。

水屋で裏方をお手伝いいただいた方からも「心温まる良いお茶会でしたね」と言っていただけの茶事体験となりました。



会報「花と緑」編集会議

中部・北陸ブロック 比留川 裕子

木もれ陽会（中部・北陸ブロック）では活動が休眠中となっており、奇しくもこの平成最後の「花と緑」の編集当番になったことで久々の活動となりました。原稿依頼から編集の段階になり、メール等にてやり取りをしながら、1月26日と2月23日に名古屋市及び豊橋市にて打ち合わせを行ないました。編集の意見を出し合いながらも、皆さんと久々にお会いするので、話は近況報告や思い出話に…。活動が活発だった十数年前よりも仕事・家族・立場様々なる変化があり感じるがあると同時に、それぞれの現在のお仕事の情報などざっくばらんに聞きすることができ、とても有意義な時間、そして元気をもらいました。

また、名古屋では権田さんと私の二人でプチ見学会。名古屋駅南西、再開された「さ

さしまライブ駅」近くの複合施設グローバルゲートへ（2017年10月にオープン）。豊橋本店の花緑雑貨shop「garage」が名古屋出店したという事と、そこに屋上庭園があるという情報から。グローバルゲートのコンセプトはずばり『GREEN STYLE』だそう。

新しく整備された街や屋上庭園はセンスのあるおしゃれな空間でした。

季節の良い時にまた訪れたいです。（当日、雪ちらつく寒い日でした…）



素敵な喫茶店でコーヒーを頂きながら打ち合わせ

石川さん佐藤国際交流賞 森本さん公園緑地功労受賞

東京ブロック 梅本美奈子

会員の石川幹子さん(東京大学名誉教授 中央大学理工学部教授)が「佐藤国際交流賞」を、森本千尋さん((一社)公園財団)が「公園緑地功労賞」を受賞されました。(共に第26回)

「佐藤国際交流賞」は、公園緑地行政の発展に尽くし、海外との交流に貢献された佐藤昌先生を記念し贈られる賞です。石川さんは、2007年中国瀋陽市「ハン川中央公園」国際競技設計で優勝し、中央公園の整備を実現に導き、2008年の四川汶川大地震では「復興計画概念法案設計栄誉賞」を受賞する等中国での活躍の他 EU マドリッド・ガヴィア公園やブータン王立公園整備など国際社会への貢献が評価されました。

「公園緑地功労賞」は、平成4年に設けられ、我が国における公園緑地事業及び都市緑

化事業の実務に多年従事して功労があり、かつ他の模範となる人(国、地方公共団体及び公益法人等の職員として公園緑地事業及び都市緑化の実務に20年以上携わる他)に贈呈される賞で、森本さんは、公園緑地管理財団での業績や全国女性造園技術者の会の発起人を務めるなど、造園界における女性の地位向上への多大な貢献が評価されました。

表彰式は6月7日(木)、(一社)日本公園緑地協会定時社員総会の席上で開催されました。受賞おめでとうございます。

写真提供:日本公園緑地協会

受賞者集合写真前列右から3番目が石川さん
後列右から2番目が森本さん



時松さん国土交通大臣賞 受賞

関東ブロック 高橋美智麻

2018年10月会員の時松淳子さん((有)季織苑)が第16回日比谷公園ガーデニングショー2018に於いてガーデン部門で国土交通大臣賞を受賞されました。

2013年よりコンテストに継続的に出展を始められ、回数を重ねるごとにスキルアップされて見事今回の受賞となりました。

心掛けているのは、「毎回違うテイストの空間づくり」とのこと。どの空間も、景色を造ること、心落ち着く空間を造ることは共通しているそうです。継続出展を続ける目的の一つには社員の獲得・定着もあり、そちらの方も実を結び始めているとのこと。



国土交通大臣賞受賞作品：
静寂閑雅～自然の恩恵を間借りして～

同郷の者として千葉から日比谷公園までの往復さえ大変なご苦労であることは容易に察せられ、そんな中、通常業務と並行してチャレンジし続けるファイトに大きな拍手をお送りし、益々のご活躍をお祈り致したいと思います。



作庭に携わった(有)季織苑の皆さん
左端が時松さん

2019年度総会・花と緑を語る会(信州)のお知らせ

東京ブロック 大橋 尚美

2019年度の総会・花と緑を語る会は、6月8日(土)に長野県松本市で開催します。集合会場、見学は第36回全国都市緑化信州フェアのメイン会場である、県立松本平広域公園です。信州の自然や風土を体験し、信州の暮らしのすばらしさを実感できる会場が作られます。テーマは「北アルプスの麓から広がる 花と緑に包まれたしあわせ暮らし」で、様々な庭園、空間が提案されます。メイン会場では女性造園技術者の造園技能を競う大会も開催され、当会からも競技に参加する予定です。フェア見学後、松本市内のホテルにて総会を開催します。花と緑を語る会では、信州フェアの関係者の方や会員の方からのお話をうかがう予定です。

翌日の6月9日(日)は交流会を行います。午前中は松本城へ、午後からは「恵泉蓼科

ガーデン」へ向います。面積約3200坪、標高1150mの蓼科高原に位置するガーデン。メインの宿根草ボーダーガーデンを始めハーブ、ローズ、ロックガーデンなど、テーマごとに区画されています。自然から学ぶという姿勢で維持管理され、恵泉女学園の学生等の研修の場で、一般公開はされていません。今回、特別に見学を認めていただき、約3時間の研修、見学をガーデン長の小澤文子さんの案内で行います。小澤さんは植物管理の姿勢について「一番の教師は自然であり、自然から学ぶ」と話されています。今回の特別な見学の機会を頂き、小澤さんに直接お話しも伺えます。この機会に是非多くの皆様のご参加をお待ちしています。詳細は後日お知らせいたします。

